

キャリアス就活
[career+]

2024卒 理系学生の序盤の就職活動（専攻分野別）

2023年4月

株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

調査概要

2024年卒の理系学生の就職戦線序盤の活動状況や志向に関する調査データの中から、主なものを抜粋し、4つの専攻分野（機械・電気系／情報系／土木・建築系／化学・農学・薬学系）、あるいは文系学生との比較などを通して、その特徴を分析した。

<目次>

1. インターンシップ等*参加状況①	P 3
2. インターンシップ等参加状況②	P 4
3. インターンシップ等の情報を探した時期	P 5
4. プログラムの応募先を探す際に重視したこと	P 6
5. 序盤の志望業界	P 7
6. 第1志望業界になったきっかけ	P 8
7. 就職活動に関する情報の入手先	P 9
8. 就職先企業を選ぶ際に重視する点	P10
9. 「面白そう」と感じる仕事	P11
10. リクルーターからの接触	P12
11. 推薦の利用予定	P13
12. 工場見学・研究所見学等の状況	P14
13. 就職活動量①（経験率）	P15
14. 就職活動量②（平均社数）	P16

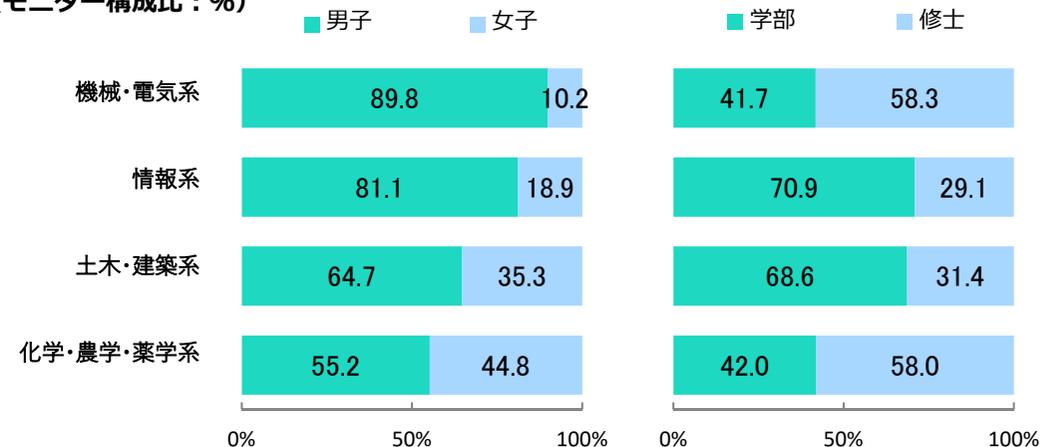
<調査概要>

調査対象 : 2024年3月に卒業予定の理系大学生・大学院生
 サンプルング : キャリタス就活2024 学生モニター
 調査方法 : インターネット調査法

	第2回調査	第3回調査	第5回調査	第6回調査	インターンシップ等 特別調査
調査時期	2022年11月	2023年1月	2023年3月	2023年4月	2023年3月
回答者数	1,040人	1,028人	1,264人	1,256人	773人
理系全体	417人	413人	472人	470人	313人
機械・電気系	102人	101人	118人	122人	85人
情報系	69人	70人	82人	83人	47人
土木・建築系	56人	47人	53人	48人	28人
化学・農学・薬学系	94人	103人	121人	123人	80人

※上記以外の専攻系統も「理系全体」に含まれる。そのため、4専攻系統の人数の合計は「理系全体」と一致しない。

(モニター構成比：%)

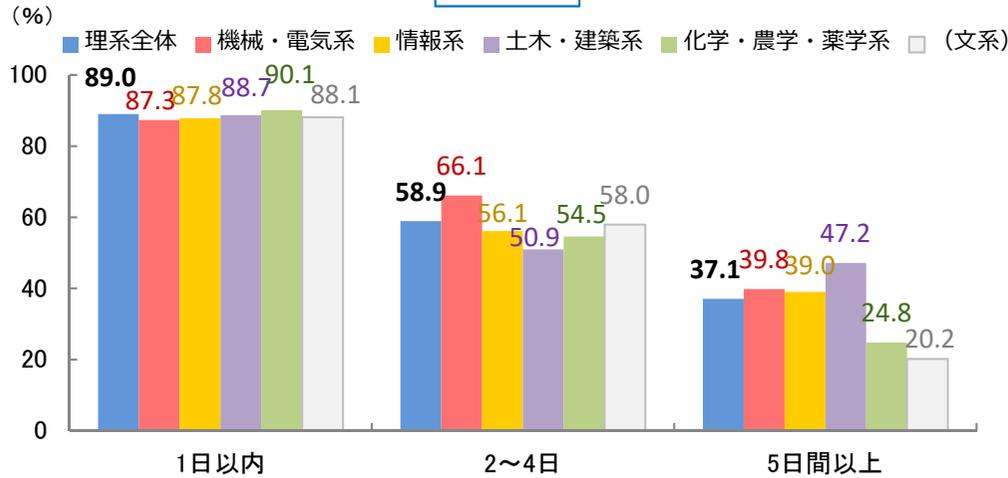


* 就業体験を含まない1日以内のプログラムも含めて調査

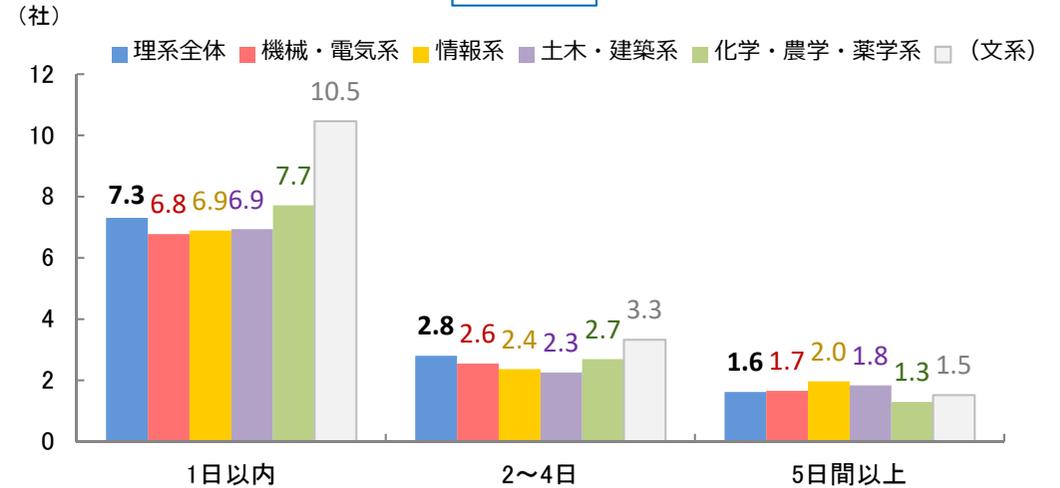
1. インターンシップ等参加状況①

- 1日以内のプログラムは、いずれの属性も約9割が参加経験を持つ。土木・建築系は5日間以上への参加が他の専攻より多い(47.2%)。
- 参加社数は1日以内のプログラムにおいて文理差が大きく、文系(10.5社)より3社以上少ない(7.3社)。
- 参加時期の内訳は、いずれの属性も8月が最多で9月が次点。夏季休暇が中心。特に土木・建築系において夏の参加割合が高い。

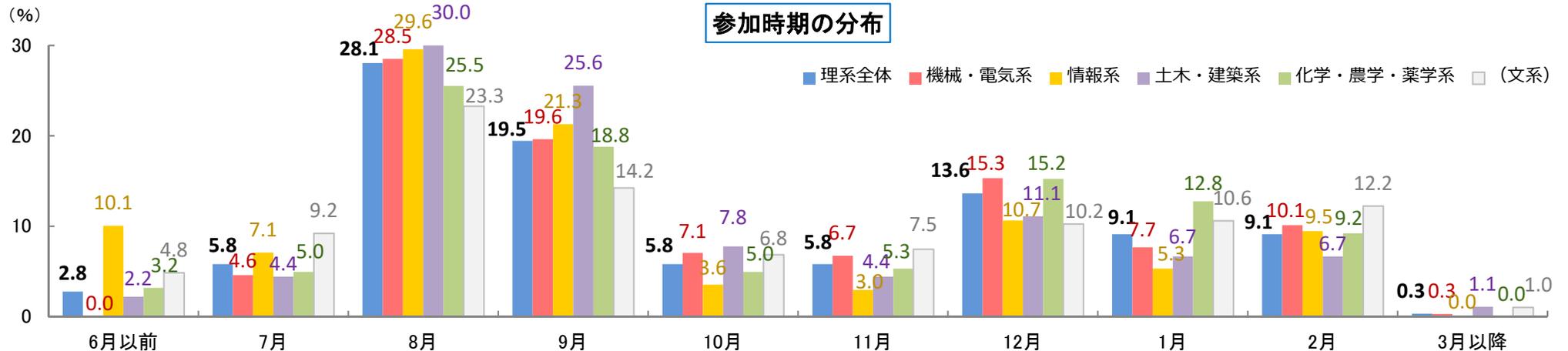
参加経験



参加社数



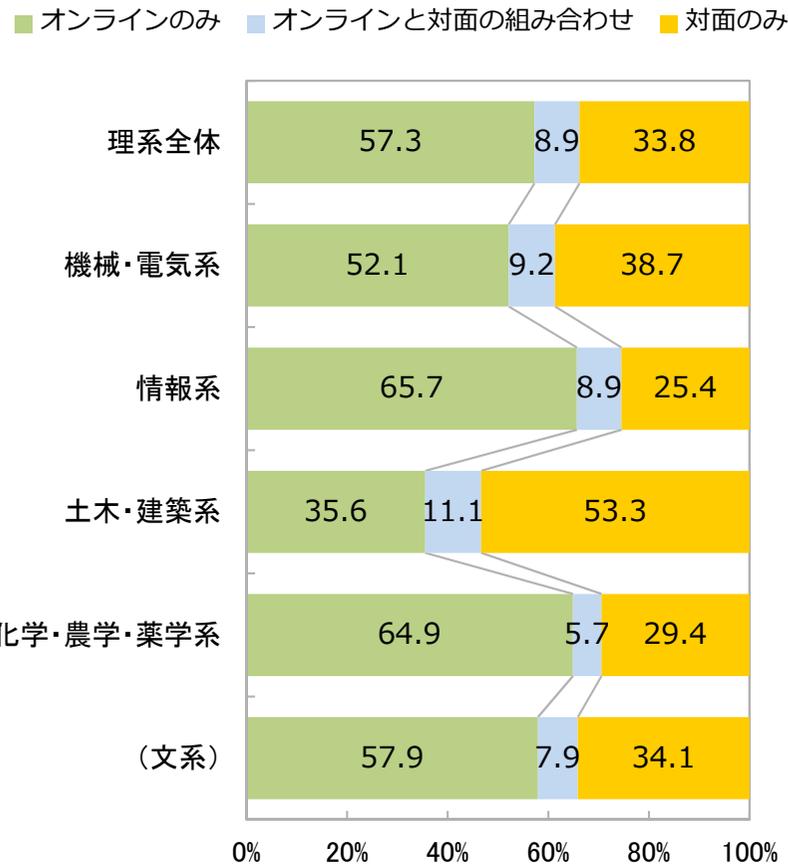
参加時期の分布



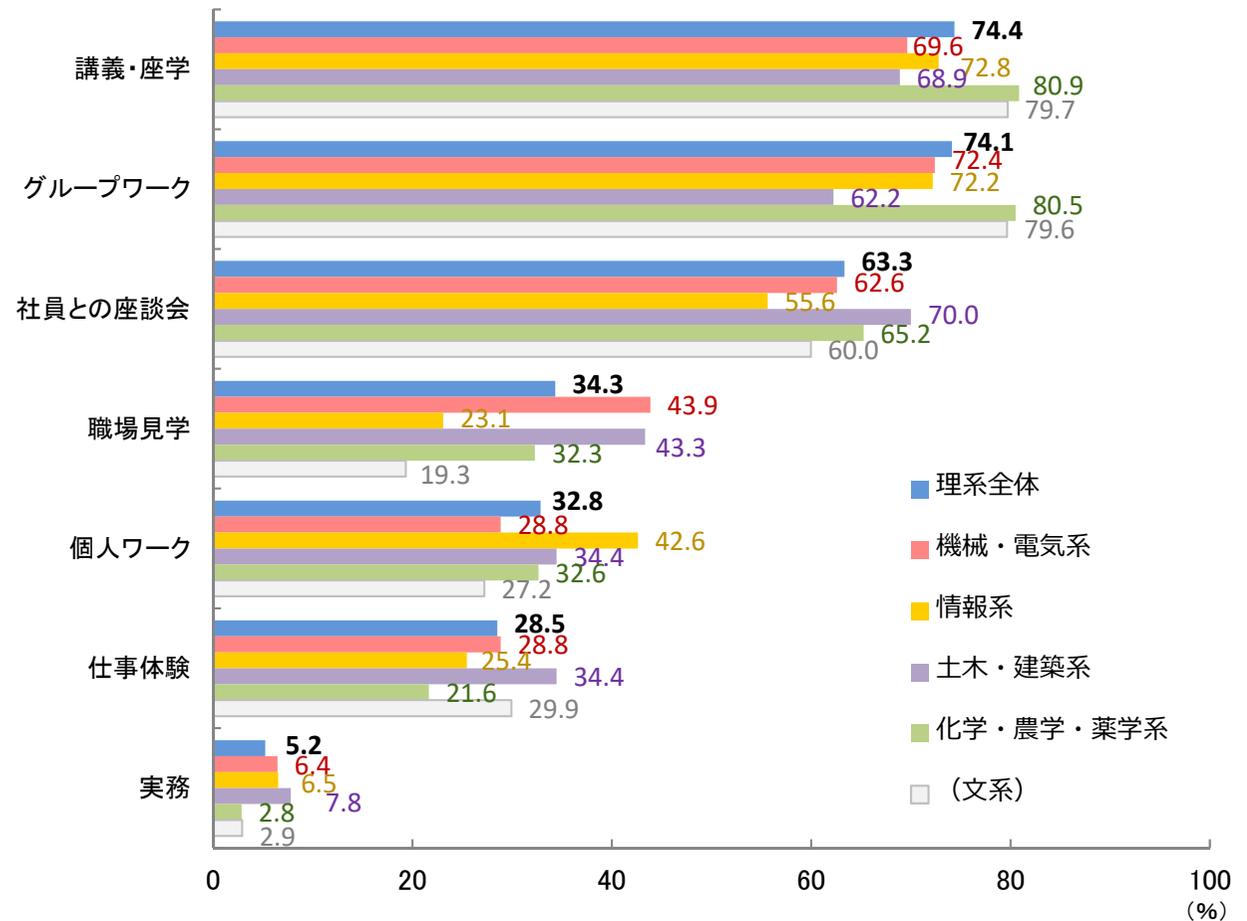
2. インターンシップ等参加状況②

- 文理とも「オンラインのみ」で実施されたプログラムへの参加が6割弱（理系57.3%、文系57.9%）。土木・建築系で対面での割合が高い。
- 参加したプログラムは「講座・座学」「グループワーク」が多い（74.4%、74.1%）。
- 機械・電気系、土木・建築系は「職場見学」の割合が比較的高く（43.9%、43.3%）、情報系は「個人ワーク」が他よりも多い（42.6%）。

参加形式



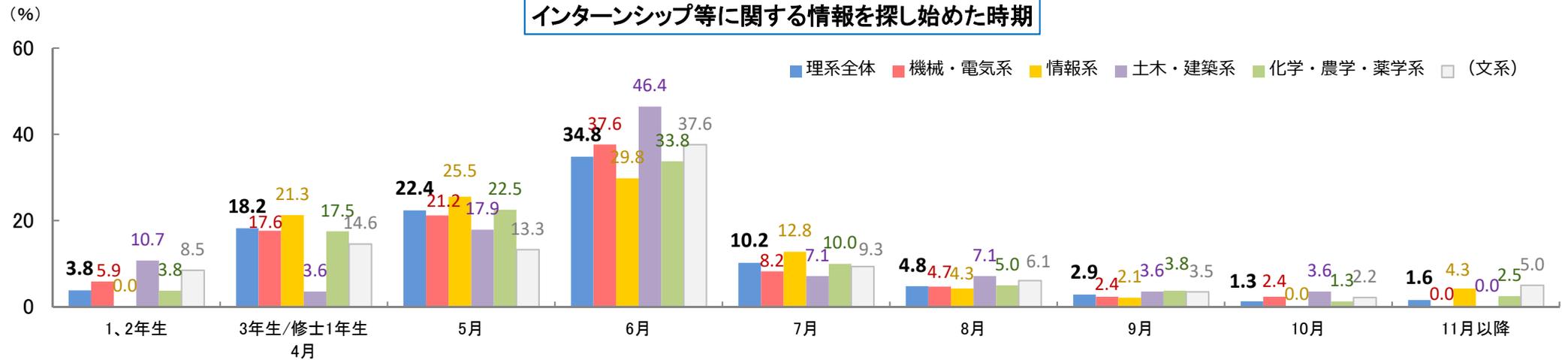
プログラム内容



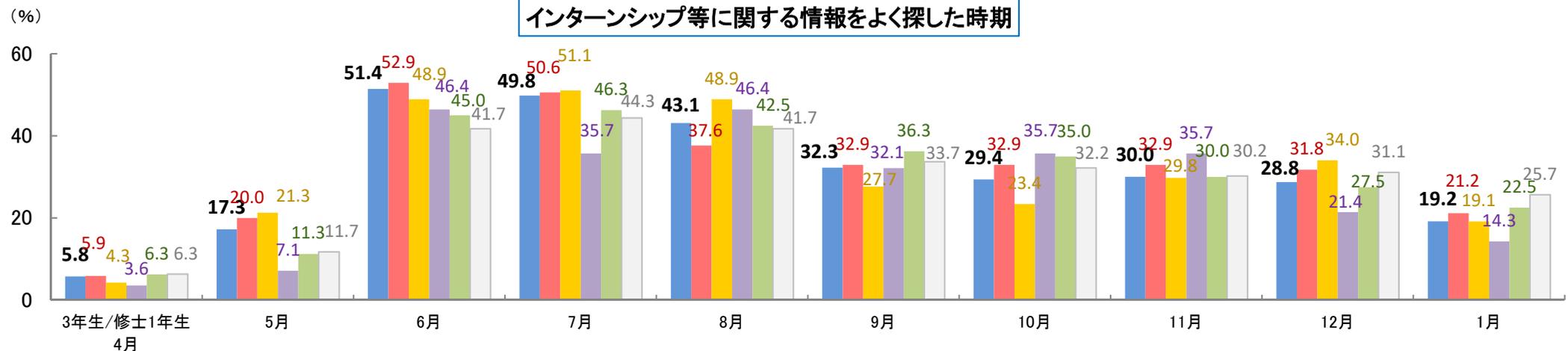
3. インターンシップ等に関する情報を探した時期

- 探し始めた時期は、いずれも3年生/修士1年生の6月が最多。理系は5月までの合計が4割を超え(計44.4%)、文系(計36.4%)より早い。
- よく探した時期は、理系全体で6月・7月が5割前後に上り、夏季プログラムの情報収集が盛んだったことがわかる。
- 9月以降は3割前後で推移し、秋や冬のプログラムを探す学生も少なくない。

インターンシップ等に関する情報を探し始めた時期

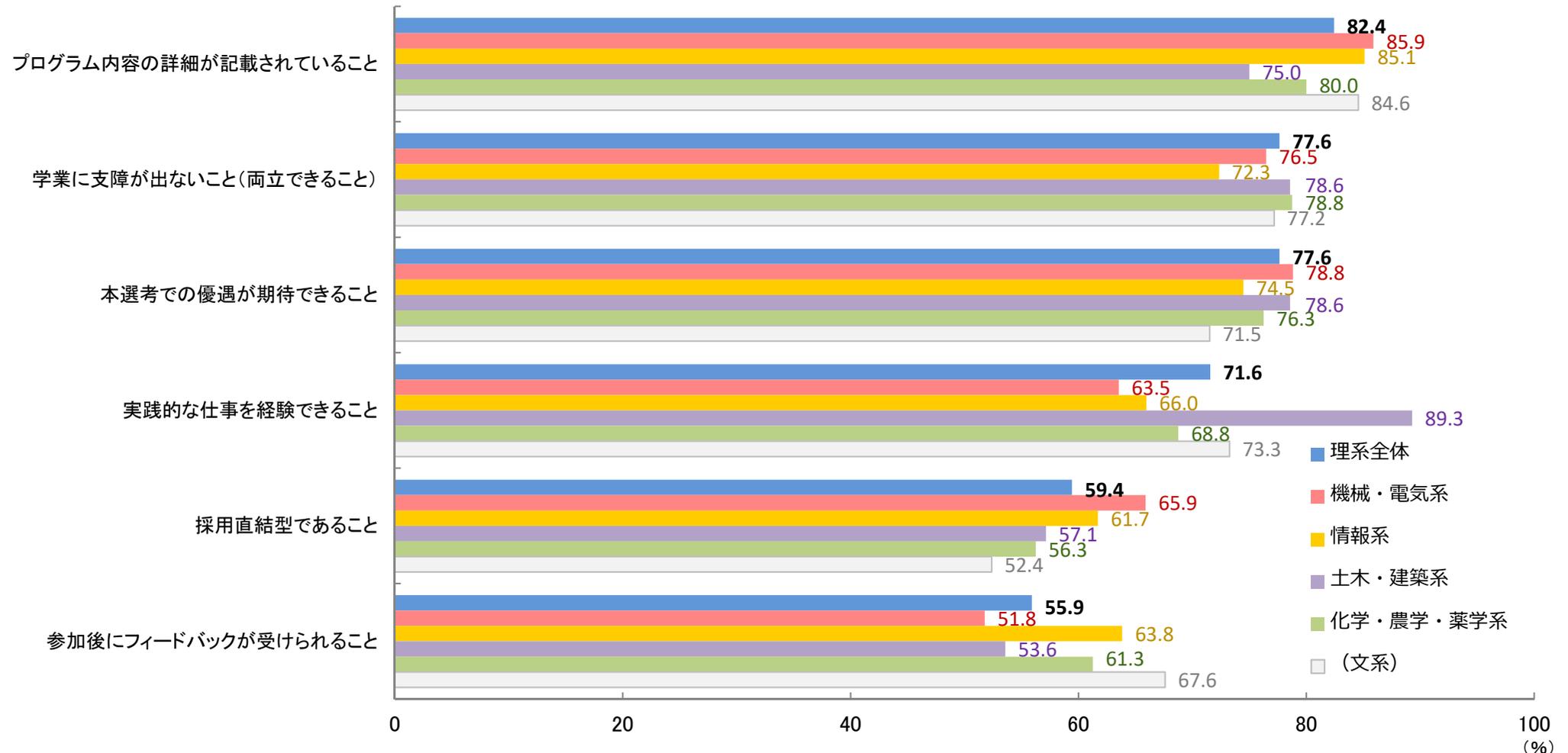


インターンシップ等に関する情報をよく探した時期



4. インターンシップ等の応募先を探す際に重視したこと

- 応募時に重視した点は、理系全体では「プログラムの詳細が記載されていること」が最多(82.4%)。特に機械・電気系、情報系で高く、内容を重視する傾向。機械・電気系は「本選考での優遇が期待できる」「採用直結型」が他より高い。
- 土木・建築系は「実践的な仕事を体験できること」が最多で(89.3%)、経験に重きを置いている。



5. 序盤の志望業界(11月時点)

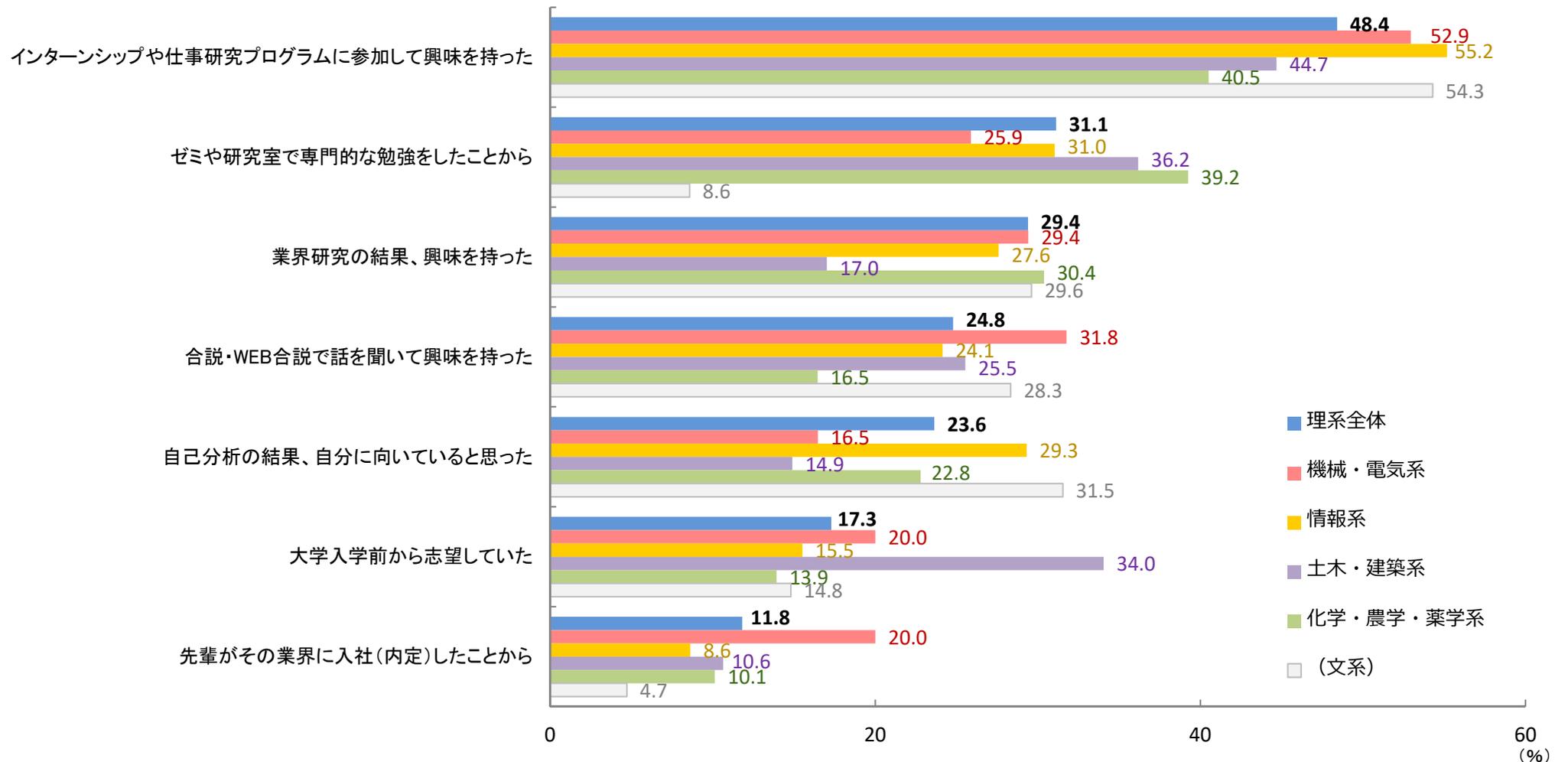
- 機械・電気系学生の志望業界は、「電子・電機」が1位(52.9%)。次いで「自動車・輸送用機器」(50.6%)。
- 情報系学生はIT業界に、土木・建築系は「建設・住宅・不動産」にポイントが集中し、専攻分野との関連性が強く表れている。
- 化学・農学・薬学系学生は、1位「素材・化学」(54.4%)、2位「水産・食品」(48.1%)の順。

※5つまで選択 (%)

順位	理系全体					(文系)									
	専攻	志望業界	割合	専攻	志望業界	割合	専攻	志望業界	割合						
1	情報・インターネットサービス	電子・電機	52.9	情報系	情報・インターネットサービス	65.5	土木・建築系	建設・住宅・不動産	85.1	化学・農学・薬学系	素材・化学	54.4	(文系)	銀行	21.7
2	素材・化学	自動車・輸送用機器	50.6	情報系	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	63.8	土木・建築系	官公庁・団体	19.1	化学・農学・薬学系	水産・食品	48.1	(文系)	マスコミ	18.2
3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	機械・プラントエンジニアリング	42.4	情報系	通信関連	34.5	土木・建築系	運輸・倉庫	10.6	化学・農学・薬学系	医薬品・医療関連・化粧品	40.5	(文系)	官公庁・団体	17.6
	電子・電機	精密機器・医療用機器	31.8	情報系	電子・電機	25.9	土木・建築系	エネルギー	8.5	化学・農学・薬学系	エネルギー		(文系)	情報・インターネットサービス	
5	水産・食品	情報・インターネットサービス	16.5	情報系	精密機器・医療用機器	13.8	土木・建築系	調査・コンサルタント	6.4	化学・農学・薬学系	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	13.9	(文系)	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	16.5
6	建設・住宅・不動産	運輸・倉庫	15.9	情報系	調査・コンサルタント	12.1	土木・建築系	銀行		化学・農学・薬学系	農業・林業・鉱業		(文系)	商社(総合)	
7	自動車・輸送用機器	エネルギー	15.3	情報系	銀行	10.3	土木・建築系	情報・インターネットサービス		化学・農学・薬学系	調査・コンサルタント	11.4	(文系)	調査・コンサルタント	14.4
8	医薬品・医療関連・化粧品	素材・化学	14.1	情報系	自動車・輸送用機器	8.6	土木・建築系	商社(専門)	4.3	化学・農学・薬学系	商社(専門)		(文系)	商社(専門)	13.7
	機械・プラントエンジニアリング	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	12.9	情報系	マスコミ		土木・建築系	農業・林業・鉱業		化学・農学・薬学系	官公庁・団体	10.1	(文系)	運輸・倉庫	12.9
10	エネルギー	調査・コンサルタント	9.4	情報系	機械・プラントエンジニアリング	6.9	土木・建築系	商社(総合)		化学・農学・薬学系	商社(総合)	8.9	(文系)	水産・食品	11.4
				情報系	エンターテインメント		土木・建築系			化学・農学・薬学系			(文系)	建設・住宅・不動産	

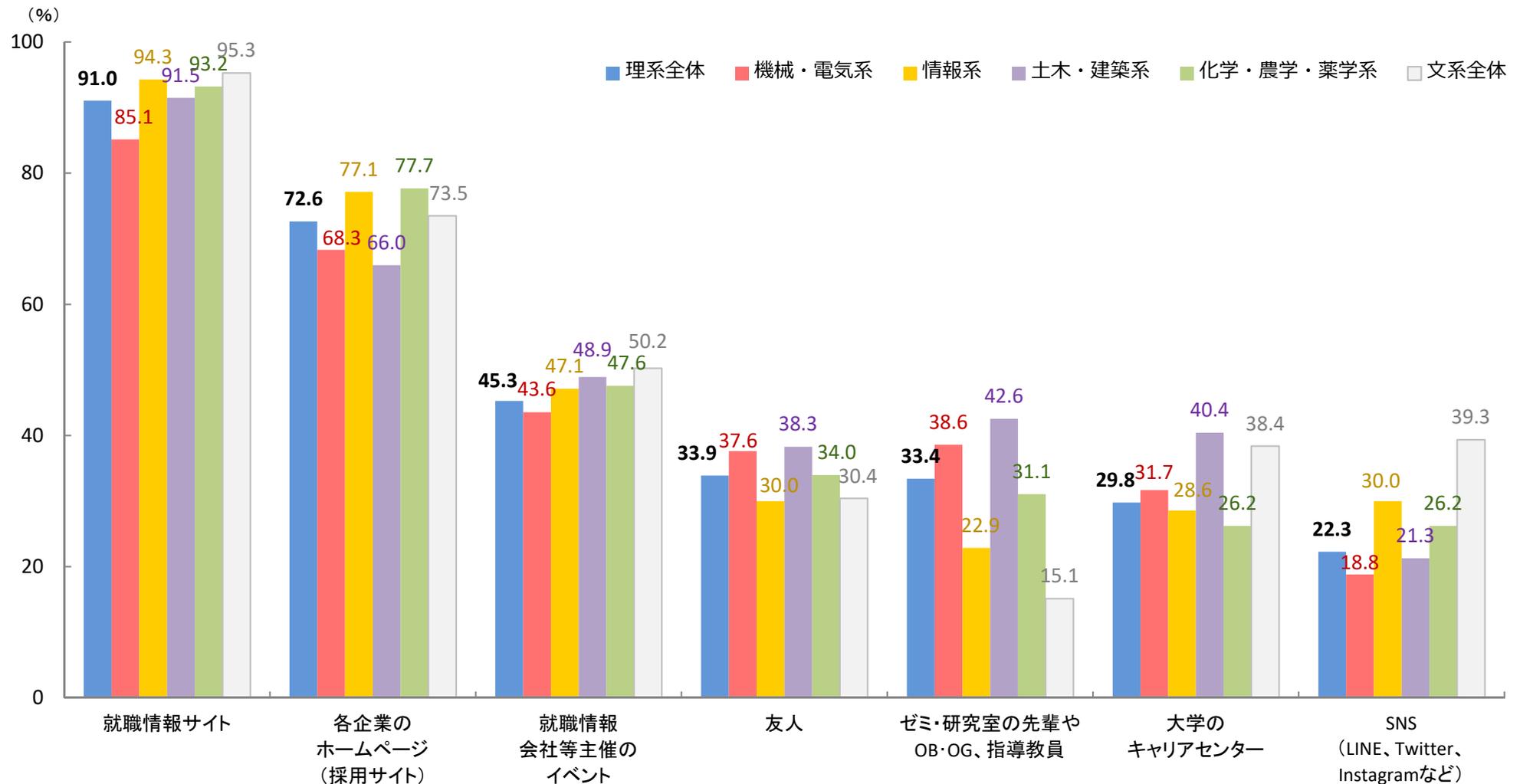
6. 第1志望業界になったきっかけ

- 「インターンシップ等のプログラムに参加して興味を持った」がすべての属性で最多。情報系と機械・電気系で5割超(55.2%、52.9%)。
- 化学・農学・薬学系と土木・建築系は「専門的な勉強をしたこと」が高い(39.2%、36.2%)。
- 機械・電気系は「合説で話を聞いて」や「先輩の入社(内定)」などが他より高く、情報系は「自己分析の結果」が高いが目立つ。



7. 就職活動に関する情報の入手先(1月時点)

- 「就職情報サイト」が最も多く、文理や専攻分野によらず広く利用されている。
- 文理差が大きいのは「ゼミ・研究室の先輩やOB・OG、指導教員」。土木・建築系と機械・電気系で特に高い(42.6%、38.6%)。
- 情報系は「ゼミ・研究室」は約2割にとどまり(22.9%)、「SNS」のポイントが他の専攻分野より高め(30.0%)。



8. 就職先企業を選ぶ際に重視する点(1月時点)

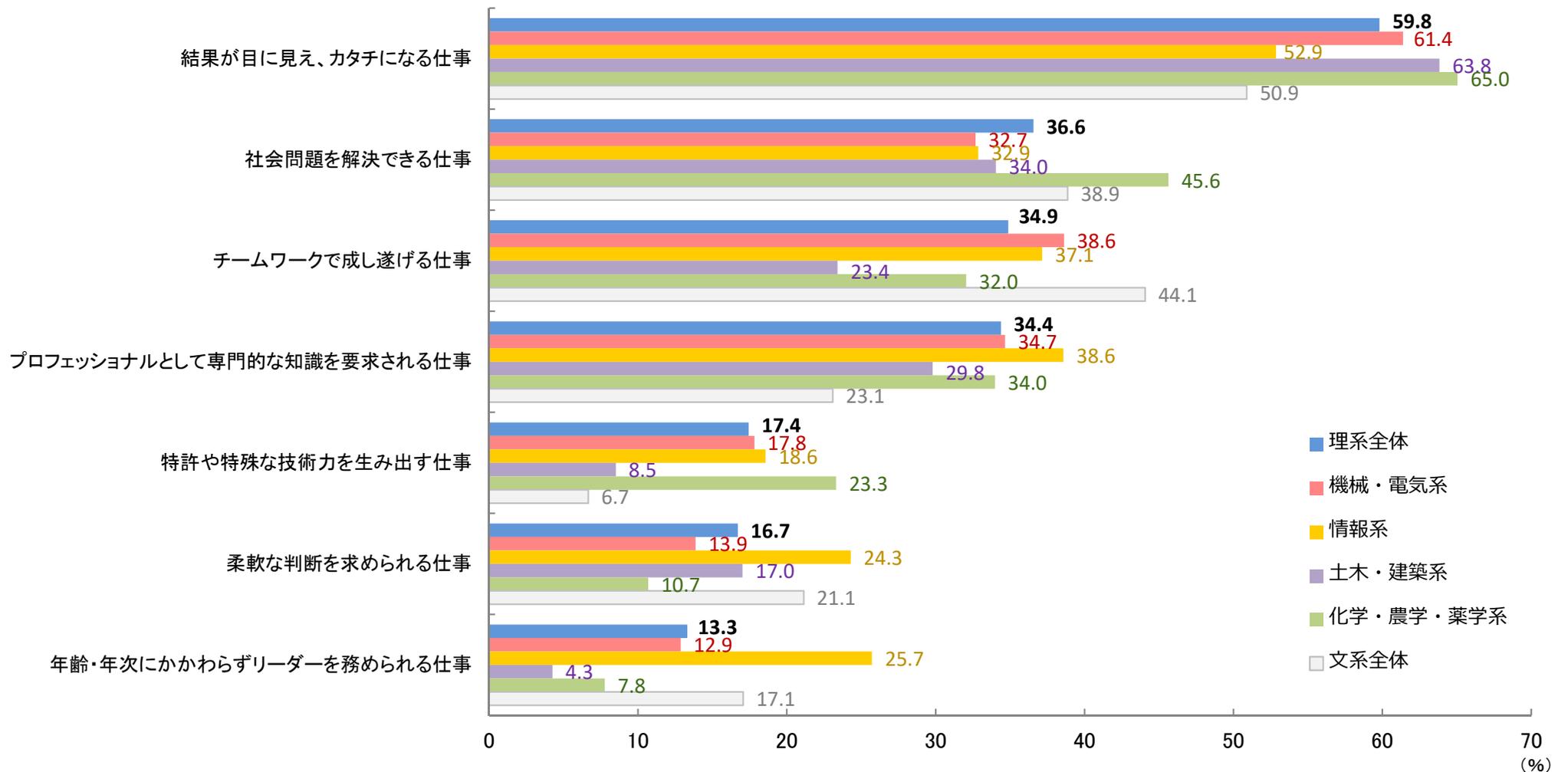
- いずれの属性も「給与・待遇が良い」「将来性がある」が上位2位。学生共通の重要な視点となっている。
特に情報系学生においてこの2項目のポイントが他の専攻分野より高く、半数以上が重視(57.1%、55.7%)。
- 理系は文系に比べ「大企業である」ことを重視する傾向が強い(理系3位、文系9位)。土木・建築系ではやや低め(7位)。

※5つまで選択 (%)

	理系全体					(文系)						
	機械・電気系		情報系		土木・建築系		化学・農学・薬学系					
1	給与・待遇が良い	47.7	将来性がある	46.5	給与・待遇が良い	57.1	将来性がある	44.7	給与・待遇が良い	49.5	給与・待遇が良い	48.5
2	将来性がある	45.5	給与・待遇が良い	43.6	将来性がある	55.7	給与・待遇が良い	34.0	将来性がある	41.7	将来性がある	44.1
3	大企業である	33.7	大企業である	41.6	大企業である	31.4	業績・財務状況が良い	27.7	大企業である	36.9	福利厚生が充実している	32.4
4	福利厚生が充実している	28.8	有名企業である	29.7	福利厚生が充実している	30.0	業界内の順位が高い		業績・財務状況が良い	31.1	休日・休暇が多い	31.4
5	業績・財務状況が良い	27.8	業績・財務状況が良い	28.7	業績・財務状況が良い		25.5	福利厚生が充実している	福利厚生が充実している	28.2	職場の雰囲気が良い	30.1
6	休日・休暇が多い	23.2	福利厚生が充実している	26.7	休日・休暇が多い	社会貢献度が高い		希望の勤務地で働ける	社会貢献度が高い		25.2	
7	社会貢献度が高い	23.0	社会貢献度が高い	25.7	職場の雰囲気が良い	28.6	大企業である	社会貢献度が高い	27.2	業績・財務状況が良い	25.0	
8	職場の雰囲気が良い	22.8	業界内の順位が高い		有名企業である	20.0	職場の雰囲気が良い	23.4	休日・休暇が多い	23.3	希望の勤務地で働ける	24.7
9	有名企業である	20.8	職場の雰囲気が良い	20.8	教育・研修制度が充実している	18.6	休日・休暇が多い		職場の雰囲気が良い	18.4	大企業である	21.1
10	業界内の順位が高い		休日・休暇が多い	18.8	業界内の順位が高い	17.1	有名企業である	21.3	業界内の順位が高い		有名企業である	19.3
								仕事内容が魅力的				

9. 「面白そう」と感じる仕事

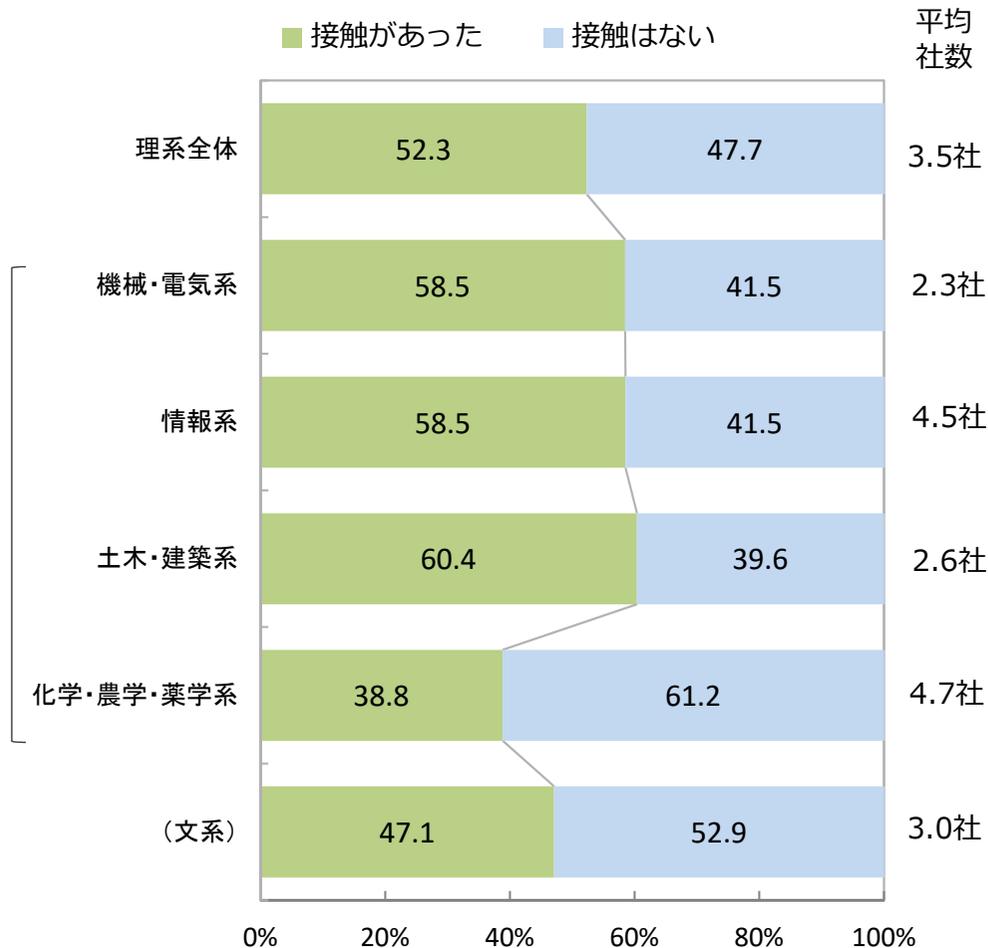
- 理系全体で最も多いのは「結果が目に見え、カタチになる仕事」(59.8%)。特に化学・農学・薬学系、土木・建築系で高い(65.0%、63.8%)。
- 化学・農学・薬学系は他に「社会問題を解決できる仕事」や「特許や特殊な技術力を生み出す仕事」などが他の専攻学生より高い。
- 情報系学生は「柔軟な判断を求められる仕事」「年次にかかわらずリーダーを務められる仕事」が他の専攻より高いのが目立つ。



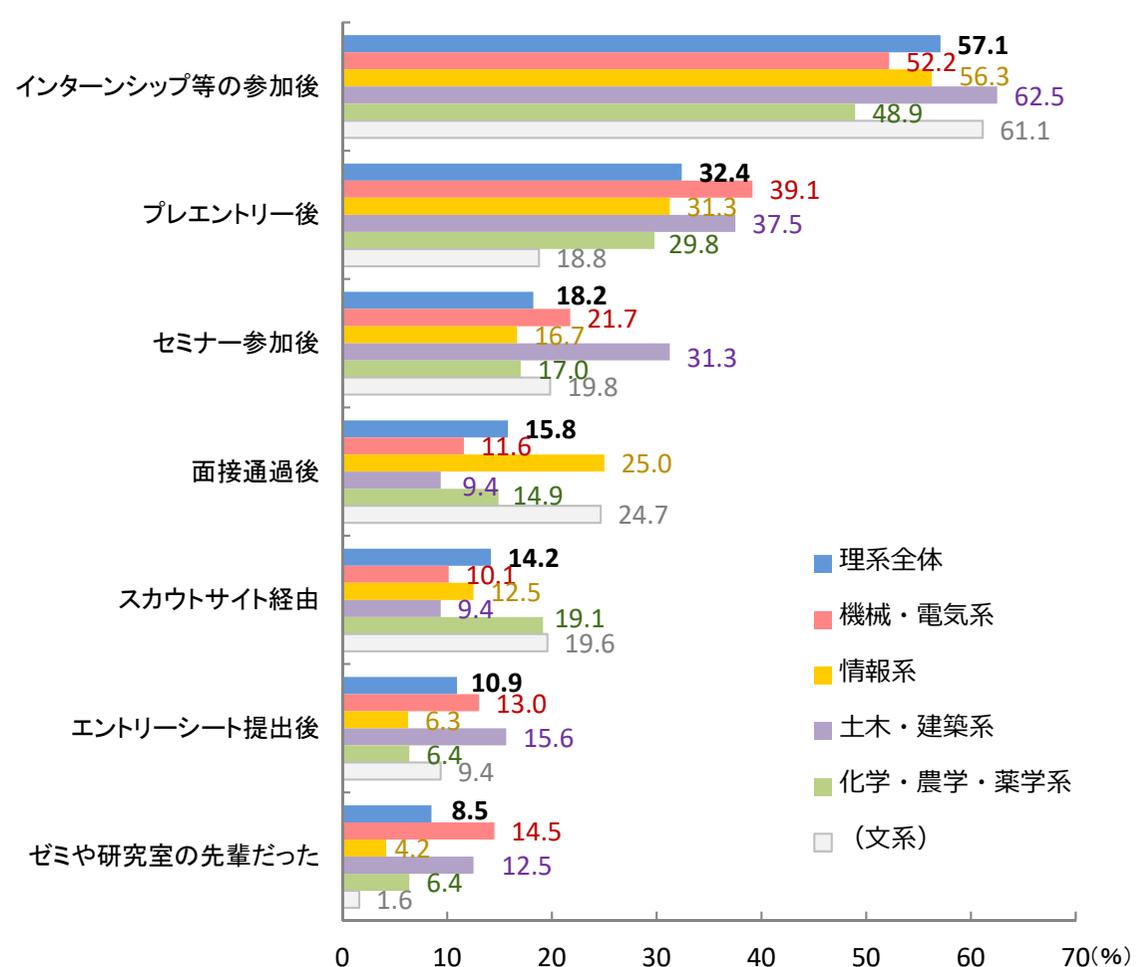
10. リクルーターからの接触(3月時点)

- 3月までにリクルーターから接触があった理系学生は52.3%。土木・建築系で多く、6割を超える(60.4%)。
- 化学・農学・薬学系は3割台(38.8%)で文系(47.1%)より低いが、社数は最も多く(平均4.7社)、二極化の傾向が見られる。
- いずれの属性も、きっかけは「インターンシップ等への参加」が最多。理系は文系に比べ「プレエントリー後」も多い。

リクルーター接触の有無

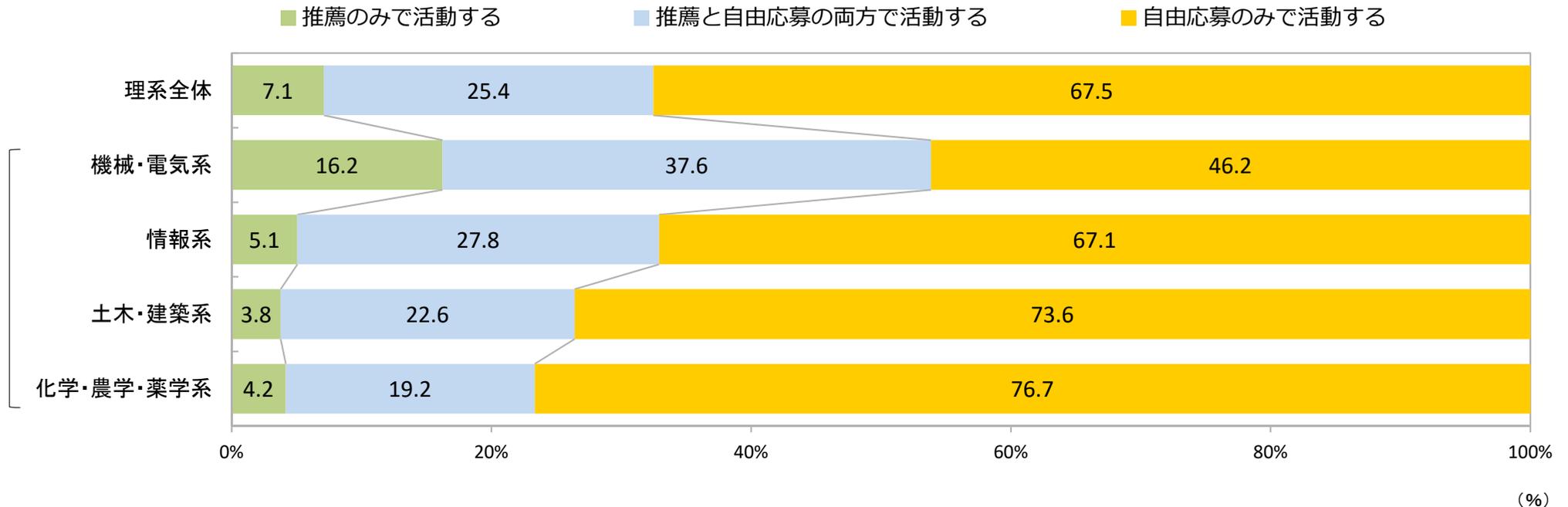


リクルーターと接触したきっかけ(ルート)



11. 推薦の利用予定(3月時点)

- 推薦の利用予定者は理系全体の3割強(自由応募との併願含め32.5%)。機械・電気系学生で多く、過半数に上る(同53.8%)。
- 自由応募で活動する理由は、「希望の企業からの推薦枠がない」が最多(28.4%)。土木・建築系と化学・農学・薬学系は3割超。



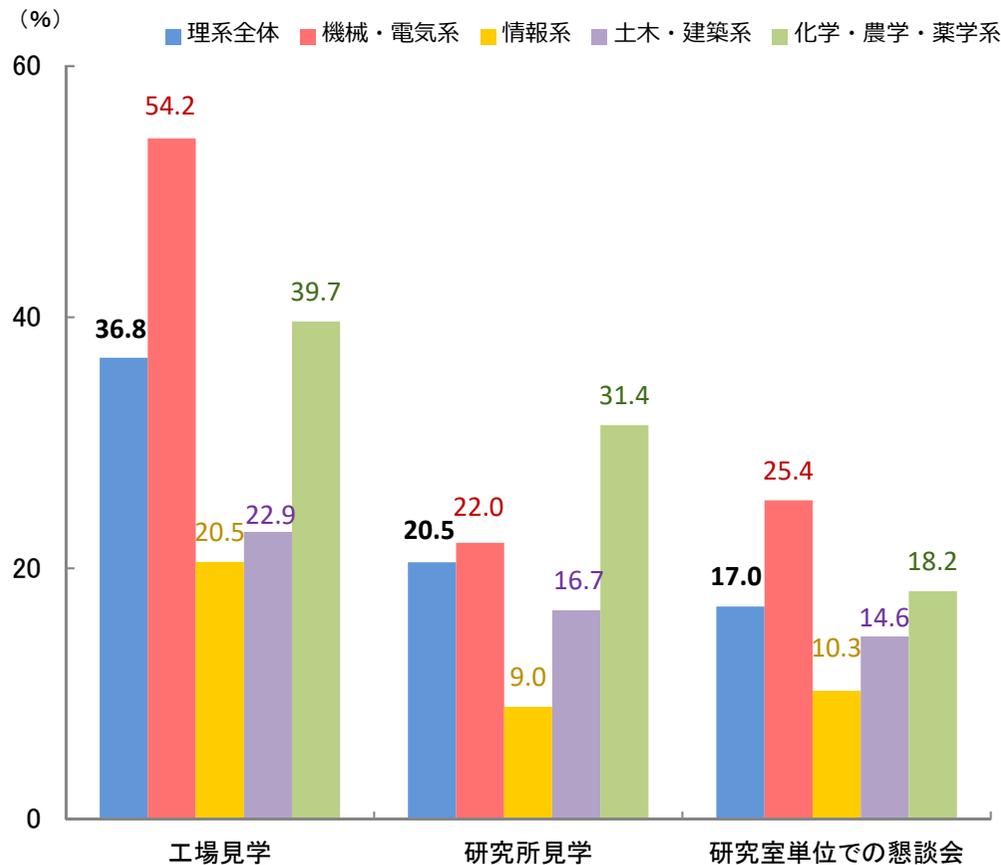
【自由応募で活動をする理由】

	理系全体	機械・電気系	情報系	土木・建築系	化学・農学・薬学系
希望の企業からの推薦枠がないから	28.4	20.2	21.6	36.7	31.0
自分で就職先を見つけたいから	21.3	11.7	17.6	30.6	28.3
推薦で内定が出たら辞退できないから	15.6	19.1	13.5	14.3	18.6
できるだけ多くの企業を受けたいから	14.4	19.1	16.2	8.2	12.4
推薦で受けても内定が取れるとは限らないから	9.9	20.2	16.2	6.1	3.5
文系就職をしたいから	4.7	1.1	2.7	2.0	5.3
推薦枠はあるが学内の競争率が高いから	2.8	5.3	4.1	2.0	0.0
自由応募のほうが先に選考が始まるから	2.6	3.2	8.1	0.0	0.9
その他	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0

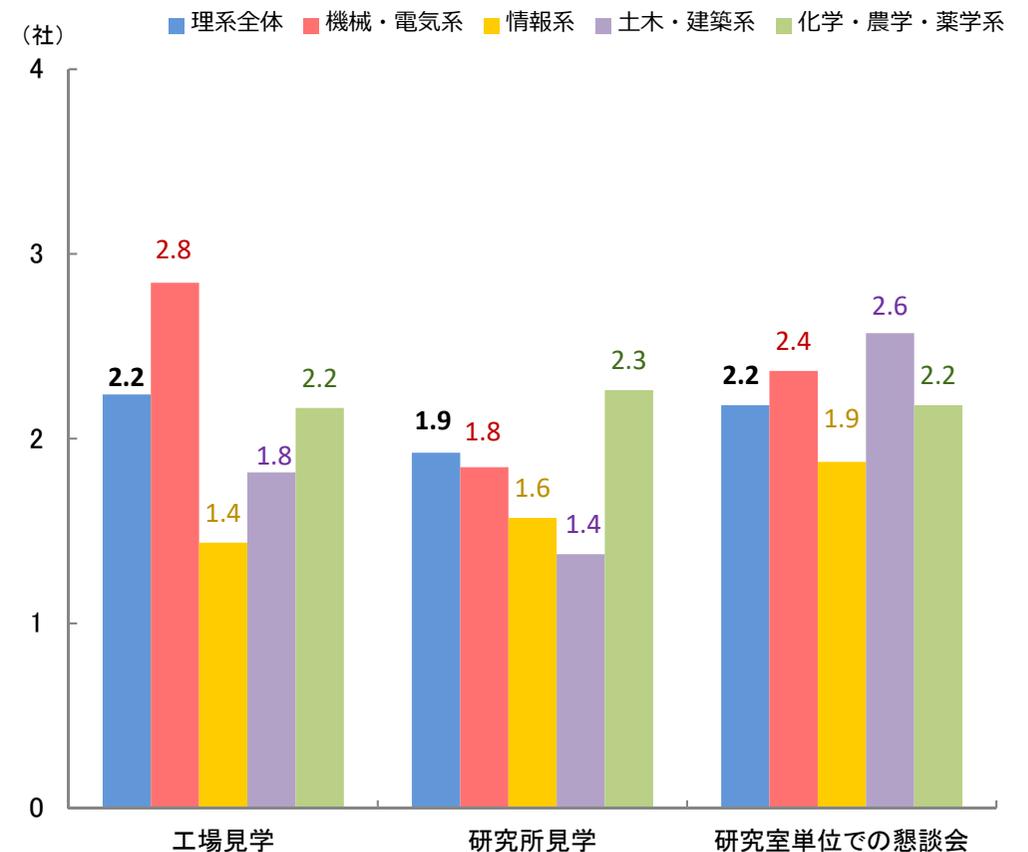
12. 工場見学・研究所見学等の状況(4月時点)

- 工場見学への参加経験は機械・電気系学生で多く、過半数が参加(54.2%)。参加社数も他の専攻より多く、平均2.8社。
- 研究所見学の経験は化学・農学・薬学系で多く(31.4%)、参加社数も最も多い(2.3社)。
- 研究室単位での懇談会は専攻分野によるばらつきが比較的小さいが、機械・電気系で参加経験者が多い(25.4%)。

参加経験



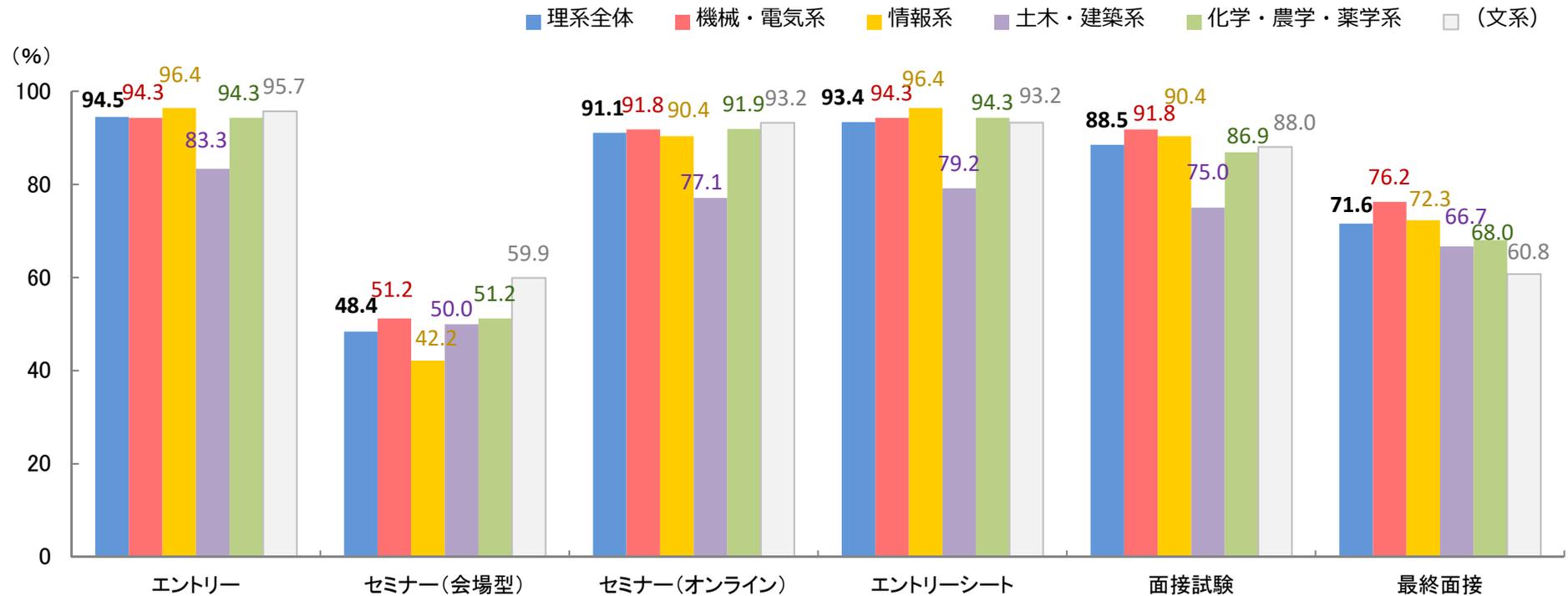
平均社数



※「研究室単位での懇談会」は、研究室の卒業生やリクルーター、人事担当者などを交えた懇談会について回答

13. 就職活動量①(経験率／4月時点)

- 4月1日時点での経験率は、エントリーから面接試験までは、文理での大きな差は見られない。
- 最終面接は文系を10ポイント以上上回り、理系学生の進行の早さが表れている。前年調査(64.3%)より7.3ポイント増加した(71.6%)。
- 理系の中でも特に機械・電気系は最終面接の経験率が高い(76.2%)。

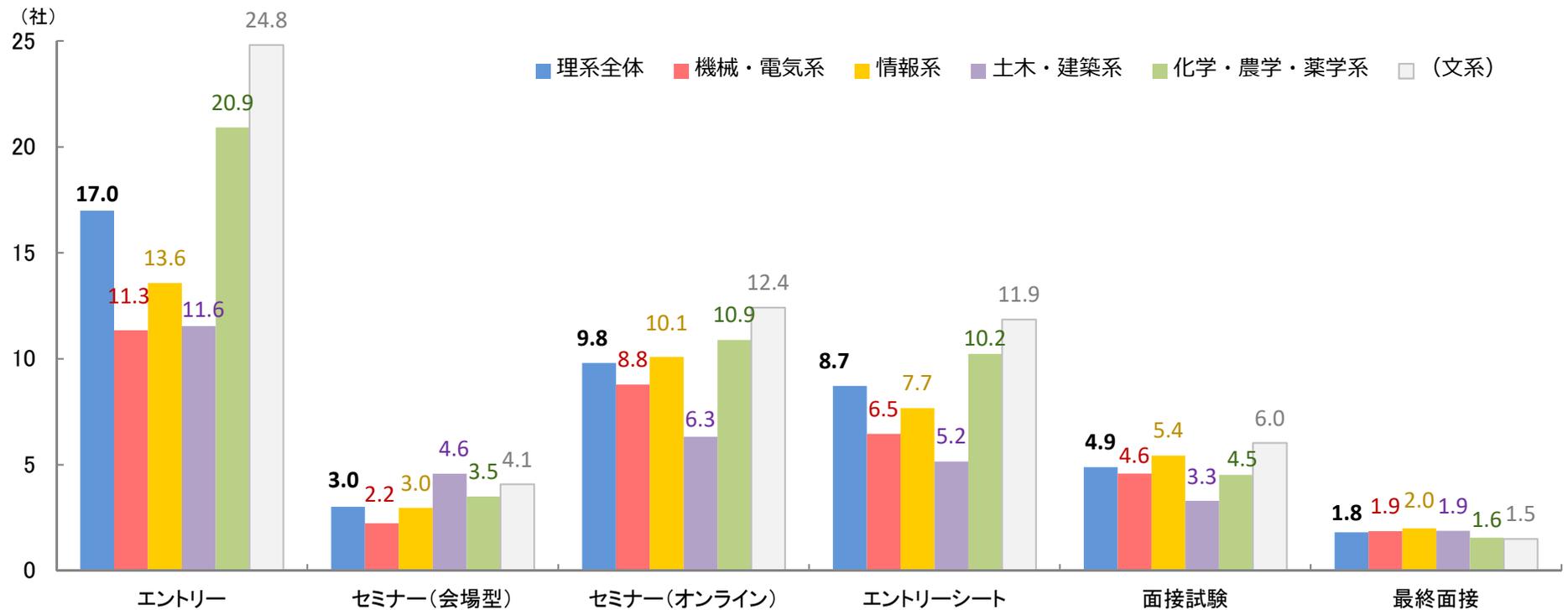


【前年比較】

	23年卒		24年卒		23年卒		24年卒		23年卒		24年卒		23年卒		24年卒	
理系全体	93.9	94.5	44.1	48.4	93.7	91.1	89.7	93.4	83.4	88.5	64.3	71.6				
機械・電気系	93.3	94.3	38.7	51.2	93.3	91.8	90.8	94.3	84.9	91.8	67.2	76.2				
情報系	95.8	96.4	38.9	42.2	94.4	90.4	88.9	96.4	84.7	90.4	72.2	72.3				
土建系	95.5	83.3	63.6	50.0	95.5	77.1	86.4	79.2	75.0	75.0	54.5	66.7				
化学・農学・薬学系	93.8	94.3	48.7	51.2	94.7	91.9	92.9	94.3	87.6	86.9	65.5	68.0				
(文系)	96.0	95.7	54.6	59.9	94.8	93.2	93.8	93.2	86.6	88.0	53.2	60.8				

14. 就職活動量②(平均社数／4月時点)

- 4月1日時点の理系学生のエントリー社数は平均17.0社。文系(24.8社)より約8社少なく、企業を絞って活動する傾向が強い。
- 理系の中でも、機械・電気系、土木・建築系はエントリー社数、ES提出社数ともに少なく、化学・農学・薬学系は比較的多い。
- 前年同期調査に比べ、理系のエントリー社数は増加したが、ES提出社数はやや減少した。



【前年比較】

	23年卒		24年卒		23年卒		24年卒		23年卒		24年卒		23年卒		24年卒	
理系全体	16.3	17.0	2.7	3.0	10.5	9.8	9.0	8.7	4.8	4.9	1.7	1.8	1.7	1.8		
機械・電気系	10.6	11.3	2.6	2.2	8.8	8.8	6.5	6.5	3.8	4.6	1.6	1.9	1.6	1.9		
情報系	12.9	13.6	2.6	3.0	10.2	10.1	7.6	7.7	4.9	5.4	1.9	2.0	1.9	2.0		
土建系	12.3	11.6	2.4	4.6	8.3	6.3	6.1	5.2	3.7	3.3	1.8	1.9	1.8	1.9		
化学・農学・薬学系	22.1	20.9	3.1	3.5	11.2	10.9	11.5	10.2	5.4	4.5	1.7	1.6	1.7	1.6		
(文系)	26.1	24.8	4.0	4.1	14.4	12.4	12.6	11.9	5.8	6.0	1.3	1.5	1.3	1.5		